

1. 授業の概要

授業の目的は、社会学の基礎的な方法と実際の社会現象を関連づけて、社会的なものの方・考え方を習得することである。

学生は、社会学 I を履修することにより、社会学入門書水準の内容を理解し、関連する新聞記事等を自分で選定して提示し、共同で議論することができる。

ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標) は、「教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している (知識・理解)」として設定を行い、これにもとづいてシラバスの作成を行った。

【授業スケジュール】

第 1 回 イントロダクション—身近なものを改めて観察すること—

第 2 回 社会学の基礎理論① 「わたしの現実」と社会的世界

第 3 回 社会学の基礎理論② 「近代」をみる社会学

第 4 回 社会学の基礎理論③ 「現代」をみる社会学

第 5 回 まとめと討論(「社会」と「個人」のとらえ方)

第 6 回 変容する現代社会のかたち① 「わたし」の社会学

第 7 回 変容する現代社会のかたち② 「恋するあなた」の社会学

第 8 回 変容する現代社会のかたち③ 学校の社会学

第 9 回 変容する現代社会のかたち④ 仕事の社会学

第 10 回 変容する現代社会のかたち⑤ 現代家族の社会学

第 11 回 変容する現代社会のかたち⑥ インターネットの社会学

第 12 回 変容する現代社会のかたち⑦ スピリチュアリティの社会学

第 13 回 変容する現代社会のかたち⑧ グローバリゼーションの社会学

第 14 回 全体のまとめ—社会的想像力と社会学

第 15 回 期末試験(試験の実施と受講生相互のレビュー)

以上のスケジュールに従って、社会学入門書を複数活用しながら、社会学の基本的な考え方の解説を行った。具体的な題材としては、学校、仕事、家族、自我等を取りあげ、それぞれについて代表的論者の考え方を理解した。

【授業評価の方法】

2013 年度の本授業は、履修者数 37 名であった。内訳は学校教育実践コース社会科教育専修(13)、教育学専修(7)、国語専修(1)、発達障害コース(1)、総合人間形成課程人間社会デザインコース(15)である。授業開始時に出席を確認し、授業終了 10 分前をめどにコメントペーパーを配布して、受講生の理解度を把握することに努めた。これにより、欠席者・遅刻者のチェックも厳密に行うことができた。毎回の出席率は約 90 パーセント～70 パーセントであった。

授業評価について、自由記述方法で学生に意見やコメントを書くように A5 の様式(記名式)を配布した。第 13 回目の「変容する現代社会のかたち⑧ グローバリゼーションの社会学」の授業に出席した学生による記述の一部分を、原文ママで以下列記する。

2. 授業アンケートの結果

- 高校のときにエスノセントリズムを習いました。今日、久しぶりにそれを聞いて韓国の整形文化を馬鹿にする日本人の精神などもエスノセントリズムであるように思えました。また、現在問題となっている韓国・中国との領土問題も、エスノセントリズムのぶつかり合いに近いものなのかなと感じました。
- 自発的に行動した、自分で考えて決めたということは不安などがついてくるのではないかと思います。私自身、自分で決めず他のひとに決めてもらう傾向にあるので、他人指向型に当てはまるのではないかと思います。
- 「権威主義的パーソナリティ」の話を聞いてみると、自分のバイト先の人の中にも数人いるなど感じたし、その他の場所においても結構いるんだろうと思う。そういう人は自分の身であったり、生活を守るためにそうした

人間に知らず知らずのうちになっているのだからと思うのだが、そのために自分のプライドなんかを捨ててしまっているとするならば自分を守ろうとしているつもりでも、本質的にもっと大切な自分というものを守りきることができていないのではないかというふう感じた。

- 「自由」という言葉を聞いて、私たちは喜びがちであるが、本当に良いものであるだろうか。自由であるために、自分で何ごととも決めなくてはならず、その決定権を持つことが、とくには厳しく感じてしまう。自由もある程度、必要であるが、自由すぎても大変であると思った。
- 第二次世界大戦のころにドイツでヒトラーが行ったような行動が、形は違えど、日本でも行われている現状があると聞き、確かにそうだと感じました。在日の方に対する激しい罵倒は、今でも日本の各地で行われています。その背景には、自民族中心主義の考え方があり、自分たち(日本人)は朝鮮人・中国人優れているんだという意識が存在しているということを知りました。
- 少し前の時代からすると「自由」であることが理想で、求めていたけど、現代の私たちにとっては、今の世の中が自由であり過ぎて、つらいと思うときがあります。「ロマンティック・ラブ」から「コンフルエント・ラブ」へと変わりつつあるように、時代や社会の流れによって人々の内面は変わってしまうのだと感じました。縛りが強すぎると、解放されたいと思うし、解放され過ぎても孤独だと感じてしまうので、2 つが合わさったくらいの社会になるのは難しいのかなと感じました。
- アイヒマンの例から、特に日本はそうだと思います。政治家にしる東電上層部にしる、何か問題があった時に自分の責任ではないといたり、想定外といたり、とにかく責任から逃れようとしているようにしか見えません。場合によっては、出費を抑えようとして対策を怠り、重大な事故を防げなかったこともあります。自由なのは自分に責任が持てるからなのであり、責任だけ取らずに自由だけを要求するのはよくないことと思います。しかし、責任が嫌だから自由を捨てるというのは問題で、責任を持てる能力を育てることが

大切なのではないかと考えます。

- 今日の授業では、主に権威主義的パーソナリティについての学習が興味深かった。第二次世界大戦前のドイツでは、その苦しい状況から、絶対的なものを欲していたという話は聞いたことがあった。そこにヒトラーが現れることによって、人々は簡単に服従していったのであろう。私自身も、部活をしているので権威(先輩・先生)に服従?しているので何とも言えない気持ちになってしまう。しかし、下のものに対して傲慢になることはまれだと思う。
- 在日外国人や、他の民族を排除しようとする考え方の背景にその民族の血をいわゆる「けがらわしいもの」としてとらえる考え方以外のものがあるという視点について、初めて触れました。それらのある意味で、「すぐれている」とするからこそおこるという考え方には初めて触れることができ、新たに関心がわきました。
- フロムの「自由からの逃走」もアドルノの「権威主義的パーソナリティ」も、次のページにあったリースマンの「他人指向型」の問題も、高校のときに、倫理が好きすぎて自学した部分があり、概説的な部分は知っていたため、具体例を用いた本講義は非常にわかりやすかったです。1 つだけ要望を言わせてほしいのですが、私は事象を客観的に見たうえで、できる限り自分で判断したいです。だからヘイトスピーチの様子を伝えてもらえるのも、それをナチスと比較して分析するのも、たいへん学びを深められたのですが、「やっている人は、きっと“ひくつ”だと思います。」といったものは「なんだかなあ…」と思ってしまいました。実際に見ることに価値があるのだろうと思います。

3. 総括

学生の将来に直接関わる現代社会の問題として、グローバリゼーションと市民生活を関連付けた解説を行ったのち、コメントペーパーへの記述を求めた。上記のように記述には各受講生の関心の所在と理解度の差が表れていた。毎回の授業時において、より丁寧に直近の官庁データや新聞記事等の資料を示しつつ、社会学の先行研究との関連を分かりやすく解説することが必要である。この点について次年度以降、より徹底したい。